

授業科目	*看護総合実習				単位	2		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU31408J		
開講年次	4	開講時期	通年	該当DP	DP2-1 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2			
担当教員	大嶋 満須美、小田 日出子、布花原 明子、石井 美紀代、鹿毛 美香、高橋 甲枝、吉原 悦子、前田 由紀子、財津 倫子、一期崎 直美、中原 智美、隅田 由加里、樋口 由貴子、溝部 昌子、金山 正子							
授業概要	【実務家教員担当科目】 学生は、自己の将来を展望した総合的な実践能力を養うために各自の希望に沿って実習施設を選定し、自ら企画した実習計画書に基づいて、現場との調整を図りながら計画的・主体的に実習を展開する。実習を通して、自らの看護に関わる実践能力・教育力を評価し、今後の課題を明らかにするとともに、根拠に基づく実践を目指して看護を探究する姿勢・態度を養う。この一連のプロセスを実務経験を有する教員が個別に対応し、臨地と学生の調整を図りながら実習を展開する。尚、臨地実習が困難な場合は実習形態を遠隔や学内実習に移行し実践する。							
学生が達成すべき行動目標	1.看護実践及び専門領域における自己の課題を探究し、明確にできる。 2.課題を解決するために、自ら企画した計画に基づいて現場との調整を図りながら、計画的・主体的に実践できる。 3.実践の場において、対象となる人々を全人的に理解し、良好な人間関係を構築し、多職種と連携しながら、適切な看護ケア、教育を実践できる。 4.計画を実践する中で、実践能力を高め、看護の質の向上に向けて、生涯、学習者として自己研鑽を続ける必要性を述べることができる。 5.自らの実践を振り返り、客観的・科学的に看護および専門性を探究する。 6.自己の看護観・教育観を明らかにし、看護専門職としての自覚を高め、自己の将来像を展望できる。							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	0	30	70	100	その他には実習記録の評価を含む。
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)					25		25	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)						5	5	
関心・意欲 (DP3-2)						5	5	
態度(DP4-1)						5	5	
態度(DP4-2)						10	10	
態度 (DP4-3)					5		5	
技能・表現 (DP5-1)						10	10	
技能・表現 (DP5-2)						35	35	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				

<p>4年間の自己の学習到達度の評価を基に自己の将来を展望した総合的な実践能力を養うために自己の課題を明確にし、その課題解決に向けて自ら企画した計画に基づいて、現場との調整を図りながら主体的・計画的に実践できる。実践においては、対象となる人々を全人的に理解し、良好な人間関係を構築するとともに、多職種とも積極的に連携し、広い視野から実践を展開できる。実践する中で貪欲に知識・技術を吸収し実践能力を高め、生涯学習者として自己研鑽することを強く意識できる。また、自らの実践を振り返り、指導者の助言や先行研究等を基に、客観的・科学的に看護を探究し、専門職としての自覚を高め、自己の将来像を描くことができる。</p> <p>実習形態の変更の場合においては、担当教員と連携し、課題が80%以上達成出来る。</p>	<p>自己の将来を展望した評価において自己の課題を明確にし、その課題を解決するために自ら企画した計画に基づき、臨地における指導者のアドバイスを受けながら計画的に看護実践・教育ができる。対象を全人的に理解しようと努力し、良好な人間関係を構築し、多職種との連携を意識しながら、看護ケア、教育を実践できる。その中で少しずつ実践能力を高め、生涯学習者として自己研鑽を続けることの必要性を認識し、自己の将来像を考えることができる。自らの実践を振り返り、臨地の指導者とのディスカッションを通して、客観的・科学的に看護、教育を考える姿勢を学ぶことができる。</p> <p>実習形態が変更した場合、担当教員と調整を図り、課題が70%～80%達成できる。</p>
---	--

## 授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>1.オリエンテーション 看護総合実習は4年間の学びの集大成の実習と位置付けられる。本実習は学生が主体的に臨地における実習を展開していく授業であること及び実習の目的・目標、達成の目安、評価の内容と方法を説明する。</p> <p>2.学生は、各自の希望に沿って実習施設を選択・決定する。</p> <p>3.各自が企画した「実習計画書」に基づき、実習受け入れ先との個別の交渉・調整を図りながら、主体的に臨地実習を展開する。</p> <p>4.看護総合実習中の学習活動は、すべて学生が主体的に計画・実施することを原則とする。実習内容の調整や実習の進め方など、具体的な学習活動の一切を学生が各自で企画・立案し、学生グループ間で調整しながら行う。</p> <p>※学内実習に変更となった場合、病院関係等の外部講師等に協力を得ながら実習を展開する。</p>	<p>実習： 実習受け入れ先との交渉・調整・実施の段階まで、教員は一貫して「学生の主体性を尊重し、できるだけ介入しない」姿勢を保持する。学生から質問や相談があった場合のみ、指導・助言するようにする。学生は主体的に実習に取り組む。</p>	<p>臨地における指導者の助言を受けながら、学生自ら必要な課題に取り組む。</p>	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	これまでの臨地実習・演習における既習内容・看護実践を振り返り、必要な事項を学習しておくこと			
テキスト	指定なし。			

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	主体的に必要な文献等を探索する。
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	社会に出て活躍できる看護職者としての実践能力、人間力を養うために、主体的な学習を期待します。
達成度評価に関するコメント	学習活動は、すべて学生が主体的に計画することを原則としていますので、自らが積極的に学習し、グループ間で課題を共有し、討議・検討を進めていただきたい。 その他の評価内容は、各領域の総合実習要項に添い、計画に即し、対象に応じた看護実践を評価する。